

茅ヶ崎公園自然生態園の取り組みについて

—在来コイ科魚類保全に向けた外来種駆除活動—

○相澤直（明治大学）、赤木光子（東京海洋大学）、天野雄一（東京海洋大学）

茅ヶ崎公園自然生態園（以下、自然生態園）は神奈川県横浜市北部に位置し、1960年代に始まるニュータウン計画において「横浜の原風景を残した公園」の一つである。自然生態園では、2000年頃より活動を開始し、里山環境の再生をめざして雑木林の整備、水田づくりなどに取り組んでいる。

園内の谷戸の溜池（御手洗池、面積1400㎡、最大水深約1.5m）では、在来のコイ科魚類の生息環境保全を目的として、2004年からアメリカザリガニ、ブルーギル、ウシガエル等外来種の駆除活動を継続している。活動は大学生が担い、籠網、四手網、手網、釣具等を用いて週1回行っている。また、これに加えて籠網を用いた生物調査を月1回程度実施している。

2004年度には、採集生物の全個体数のうちおよそ70%を外来種が占めていたが、数年間でブルーギルおよびウシガエルが根絶され、外来種の割合はおよそ3%に低下し、現在も同様の状態を維持している。アメリカザリガニについては、籠網、竹筒、手網等による捕獲を継続しているが、駆除活動の努力量を減らせば増加に転じることは明らかであり、水辺の生物環境の再生に向けて終わりは見えない。

こうした駆除活動と並行し、「めざせ！ザリガニマスター」というイベントを実施している。近隣の水辺で子どもたちが採集したアメリカザリガニを引き取る活動で、水辺の生き物の魅力や外来種への関心を広げることをテーマとしている。引き取ったアメリカザリガニの個体数に応じて、参加者に10級から始まる「級」を進呈し、進級ごとに魅力的なイラストのカードをプレゼントしている。進級をめざして意欲的に地域の水辺に通い、環境変化について話してくださる親子も多い。

引き取ったアメリカザリガニは、園内の水田の肥料や飼育生物の餌とするほか、動物園に爬虫類等の餌として提供しており、命をできるだけ無駄にしないことを大事にしている。地域の子どもたちにアメリカザリガニの駆除活動を楽しく体験していただくことで、水生生物や外来生物への興味が広がり、外来種問題への関心喚起の一助となればと考える。



御手洗池上流部のアメリカザリガニ捕り



「めざせ！ザリガニマスター」カード